

## 千葉県環境審議会鳥獣部会アカゲザル小委員会の開催結果（概要）

1 開催日時 令和6年3月15日（金）

午後3時から午後4時50分

2 開催場所 千葉県森林会館 5階 第1会議室

千葉市中央区長洲 1-15-7

### 3 出席者

【委員】丸橋珠樹委員（委員長）、川本芳委員、役山多佳志委員、榎本文夫委員、草刈秀紀委員、濱中修委員、笹子敏彦委員、千原秀樹委員、石川和也委員

【 県 】齋藤和義自然保護課長、他自然保護課職員

【オブザーバー】野生動物保護管理事務所

### 4 議題

第1号 第2次千葉県アカゲザル防除実施計画の中間評価について

### 5 結果

第1号議題について議論がなされ、事務局が原案を修正したのち、再度、委員の了承を得ることとなった。

### 6 主な質疑・意見

#### （1）資料1の説明について

問 アカゲザルの群れは、防除実施計画策定時は防除実施ラインをこえていなかったが、現時点ではツバキ群が越えているがいつ頃越えたのか。

答 ツバキ群が3年ほど前から防除ライン内外を行き来している。

問 図4で捕獲数が多かった年の翌年に捕獲数が減る原因は何か。

答 堅果類の豊凶が影響していると考えている。また、大きい群れが縮小したのも要因の一つではないか。

**問** 捕獲により、行動域の縮小が起きたのか。

**答** そのように考えている。

**問** 感覚的におおよそ何頭くらい生息しているのか

**答** 現場の感覚としては、1,500~2,000頭くらいである。

**意** ニホンザルとは異なり、千葉県のアカゲザルは異なる群れ同士がすぐに合流する。これらを群れとして区別することが適切なのか分からない。また、現在はとにかく個体数を減らすことを最優先に取り組んでいるが、今後事業が進んできたときに、事業として個体数を減らすことを優先するか、あるいは群れの数減らすことを優先するかを検討する必要があるかもしれない。

**問** 図4の県アカゲザル事業による捕獲数及び檻数の推移について捕獲数と檻数の相関関係が無いようだが、檻の設置場所が悪いのか、どのように分析したら改善できるのか教えていただきたい。また、捕獲檻の設置場所ごとに捕獲数の推移など細かく分析した方が良いのでは。

**答** 1つ目の質問は、群れの行動域と大型檻の設置場所が合致すれば大量捕獲できるが、そうでないと大量捕獲が難しい。従って、群れの集中利用域を把握することが今後重要である。2つ目の質問は追加資料を参照。

## (2) 資料2の説明について

**意** 箱わな以外のくくりわな等の手法を検討してほしい。

**意** 大量捕獲を優先している事業なので、わなではなく、大型檻を使用していると理解している。

**問** 根絶可能性の検討と根絶可能な群れの選択を行い、集中的に捕獲を行って根絶の事例を作る努力をしてほしいことと、根絶が可能な群れはどれか教えてほしい。

**答** 群れにGPSを装着して行動域の把握を進めているが、なかなかうまくいっていない状況と思う。まずは発信機を装着して行動域が把握できる群れを増やし、適切な檻の設置場所や稼働時期を把握していくことが重要。

**意** モニタリングについて、本計画期間中は当初の計画通り進めて構わないが、次期計画に向けて、アカゲザルについては交雑度合いの変化をモニタリングしてはどうか。ニホンザルは交雑状況をモニタリングしているが、アカゲザル母群の交雑度合いが変化している可能性が気になっている。一部で良いので、アカゲザル母群の交

雑状況の変化をモニタリングすることも計画に含めてほしい。

意 おとりザルについて、発情時期以外でも効果はあるか検証してみてもいい。また、発情ホルモンを使って誘引してみてもいい。

意 野外実証の前に、実験による誘引効果の検証が必要。

意 群れの遊動域が重なっており、排他性が見られないということだが、個体数が減った群れが他の群れに吸収される可能性があるのではないかと。また、高頻度利用域は、イチイガシが豊富な地域と思う。マテバシイはナラ枯れで選択的に枯れているため、サルの餌利用に影響するかもしれない。

意 8月頃に結実状況から豊凶が推測できる。それを基に檻の設置場所を判断するのはどうか。

意 ナラ枯れで餌資源が不足するのであれば、檻設置場所を適切に選択できれば、大量捕獲につながるかもしれないので、現場はナラ等の状況にも注視してほしい。

意 市町村と連携して、農地の誘引物の除去を進めてほしい。

意 小型檻の順次移動など、他の委員が提案していることについては、経費が心配である。捕獲者の立場としては、捕獲経費を増やすなどの支援が必要と感じる。相応の予算をつけるよう県も努力してほしい。

意 被害額は少ないが、実際には農作物が被害にあっているため、今後も対策を行っていただけたらありがたい。

意 檻の設置場所の選定のため、行動域の把握が肝要なので、県は市町村と連携して進めていただきたい。また、自然の移り変わりに伴うサルの行動変容を把握することも重要なため、そういった調査手法も検討して、今後の大量捕獲のためのアイデアを検討していただければと思う。